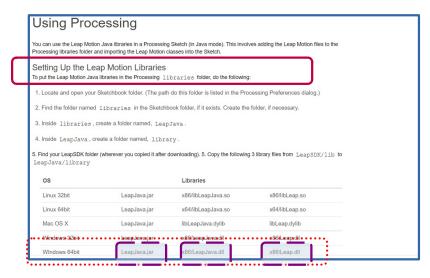
■Leap Motionの動作に必要なライブラリの格納

LeapMotionを利用するにあたって、必要なライブラリをProcessingの開発環境に格納します。

LeapMotionの開発情報サイトを確認ください。

 $https://developer-archive.leap motion.com/documentation/java/devguide/Leap_Processing.html leap motion.com/documentation/java/devguide/Leap motion.com/documentation/java/devguide/Leap motion.com/documentation/java/devguide/Leap motion.com/documentation/java/devguide/Leap motion.com/documentation/java/devguide/Leap motion.com/documentation/java/devguide/Leap motion/java/devguide/Leap motion/$



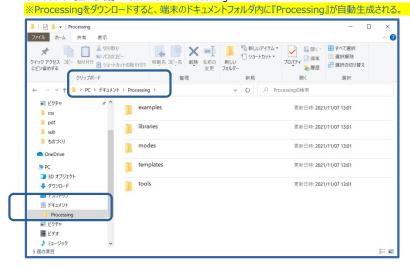
Windows環境では、次の3つのライブラリが必要と説明書きがあります。



3つのライブラリは、インストールしたSDKにあります。これから、Processingの環境フォルダにそれぞれ格納します。

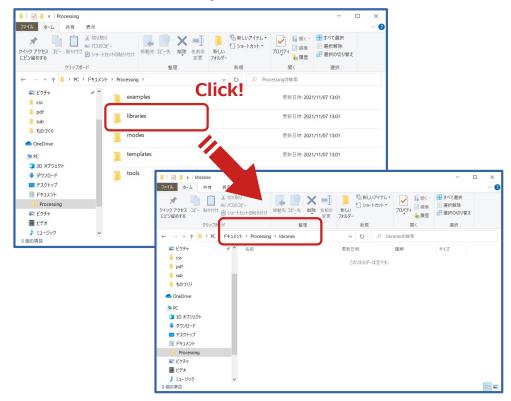
①格納先のフォルダに移動します。

C:¥Users¥【ユーザ名】¥Documents¥Processing

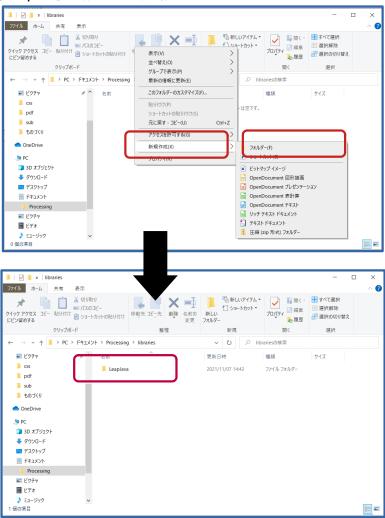


②フォルダ『Libraries』に移動します。

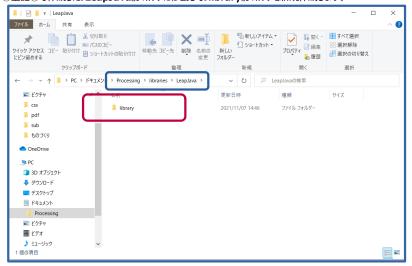
C:¥Users¥【ユーザ名】¥Documents¥Processing¥libraries



③『LeapJava』という名前のフォルダを新規作成します。

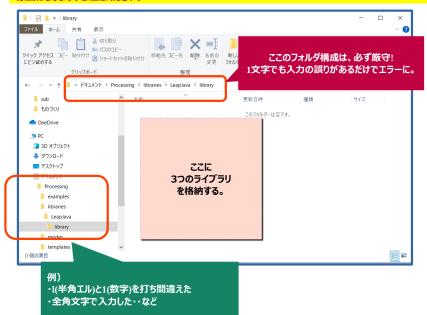


④上記③で作成した『LeapJava』フォルダに移動して『library』フォルダを新規作成します。

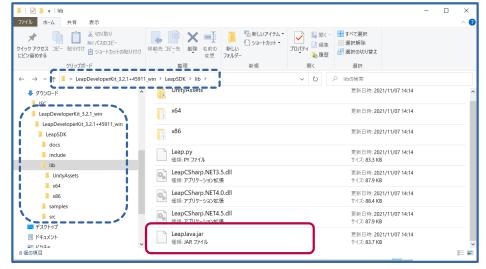


⑤この『library』フォルダ内に、SDKの必要なライブラリ3つを格納します。

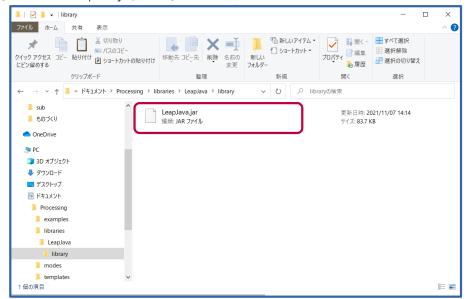
※このパスはProcessingが動作する上で、読み込んだり書き込みを行う環境です。フォルダの名称が1文字違うだけでエラー原因になります。ご注意ください。



⑥ダウンロードしたSDKの次のパスから『LeapJava.jar』ファイルをコピーします。

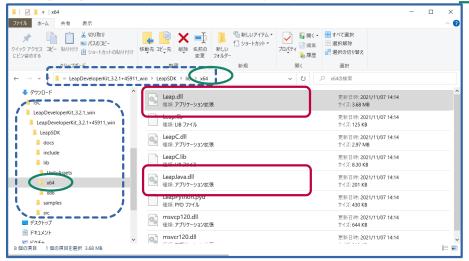


⑦入手したファイル『LeapJava.jar』を、上記⑤のフォルダに貼り付けます。

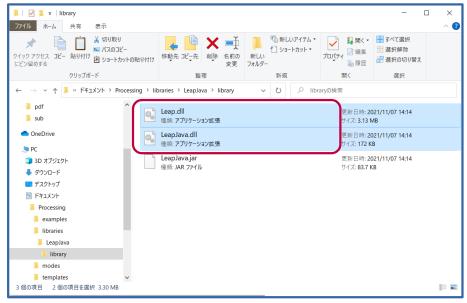


⑧続いて、ダウンロードしたSDKの次のパスから『Leap.dll』と、『LeapJava.dll』ファイルをコピーします。

 $C: \\ \textbf{$\mathsf{USersY}[\mathbf{J-f'A}]$} \\ \textbf{$\mathsf{POwnloadsYLeapDeveloperKit}_3.2.1_win$} \\ \textbf{$\mathsf{LeapDeveloperKit}_3.2.1+45911_win$} \\ \textbf{$\mathsf{LeapSDK}$} \\ \textbf{$\mathsf{Iib}$} \\ \textbf{$\mathsf{X}$} \\ \textbf{$\mathsf{C}$} \\ \textbf{$\mathsf{M}$} \\ \textbf{{$\mathsf{M}$}} \\ \textbf{{$\mathsf{M}$}} \\ \textbf{{$\mathsf{M}$}} \\ \textbf{{$\mathsf{M}$}} \\ \textbf{{$\mathsf{M}$}} \\ \textbf{{$\mathsf{M}$}} \\ \textbf{{{\mathsf{M}}}} \\ \textbf{{{\mathsf{M}$



⑨入手した『Leap.dll』と、『LeapJava.dll』ファイルを、上記⑤のフォルダに貼り付けます。



⑩上のように、3つのライブラリを格納したら、準備は完了です。